

まえがき

本研究資料は、プロジェクト研究「効率的な農村活性化に向けた多様な主体との連携モデルの構築に関する研究」（平成21～23年度）及びプロジェクト研究「被災地域の復興過程等の分析による農山漁村の維持・再生に関する研究」（平成24～26年度）で実施した宿泊業等と連携した教育交流による農業生産振興及び地域活性化に関する研究成果をとりまとめたものである。

農山漁村における子供を対象とした宿泊体験の取組は、1990年代から全国で進められてきた。この取組は、教育関係者からのニーズも高く、子供の情操教育に効果を与えることが期待されていることに加えて、農山漁村地域の活性化に効果を上げることが期待されている。さらに、平成20年度より、総務省、文部科学省、農林水産省の3省連携により、小学生を対象に農山漁村で宿泊体験活動を全国的に推進する「子ども農山漁村交流プロジェクト」が開始され、地域受入協議会、全国コーディネート組織、全国の受入地域の情報提供システム等受入体制の整備が進められた。こうした農山漁村を場とした子供宿泊体験は、受入地域に対して経済効果はもとより受入農林漁家自身の意欲や集落や地域の活力の再生など多様な効果の発現が期待されている。

本研究資料は、そうした子供宿泊体験の現状と課題について当研究所と農林水産省農村振興局都市農村交流課が共同で実施した「教育交流における宿泊体験の取組に関する意向調査」の結果と宿泊体験受入地域の実態調査結果を中心にとりまとめたものである。

意向調査にご協力いただいた受入地域協議会と宿泊体験受入者の皆様、ならびに実態調査を行った関係者の皆様には、深く感謝申し上げる次第である。

特に、意向調査回答者中には東北の方々が多く、本調査実施後に東日本大震災で被災された地域も多くある。震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々の営農と生活の回復、被災地の一刻も早い復旧・復興を願って止まない。

平成27年3月

農林水産政策研究所
農村活性化プロジェクト
教育交流チーム